（様式１）

令和6年度　学校評価結果報告書（特別支援学校用）

学校整理番号	特4
学 校 名	青森県立弘前聾学校
対象障害種別	視覚・聴覚・知的・肢体・病弱

自己評価実施日	令和6年11月25日（月）
学校関係者評価実施日	令和7年2月20日（木）

（1）学校教育目標	個々の障がいの状態や心身の発達の段階に応じた教育活動を通して、ことばの力と基礎的・基本的な学習内容の定着・向上を図り、心豊かにたくましく生きる幼児児童生徒（以下「子ども」という。）を育てる。
（2）現状と課題	本校は県内最小規模の聾学校だが、障がいの重複化・多様化に加え、医療的ケアを要する複数生徒の在籍など、適切な教育的配慮・対応を図る必要がある。また、聴覚に障がいを有する子ども一人一人が『夢や希望をもって、たくましく挑戦できる』よう、多様な教育実践の工夫を取り入れた学びと豊かな体験活動の充実に努めながら、学習指導の重点化を進め、業務のスリム化を図ることが課題である。
（3）重点目標	1　子ども一人一人の教育的ニーズに応じた学習指導の充実
	2　地域とともにある学校づくりの推進
	3　教職員の専門性向上と地域における特別支援教育のセンター的機能の充実
	4　学習活動の重点化と働き方改革の推進
（4）結果の公表	・学校運営協議会で学校評価アンケートの結果と今後の取り組みについて説明・配付した。 ・ＰＴＡ全体会で学校評価アンケートの結果と今後の取り組みについて説明・配付した。 ・学校ホームページに学校評価結果報告書を掲載し、地域に発信した。

（9）-イ　学校関係者評価委員会の構成

・社会福祉法人理事長　・幼保園園長
・学校所在町会代表　・ＰＴＡ会長
・大学准教授　・耳鼻科医
・聴覚障害者協会弘前支部会長
・聴覚障害者協会弘前支部事務局長
・本校校長　※学校運営協議会委員を兼ねる

自己評価					学校関係者評価	（10）次年度への課題と改善策
番号	（5）評価項目	（6）具体的方策	（7）具体的方策による目標の達成状況	（8）目標の達成度	（9）-ア　学校関係者からの意見・要望・評価等	
1	授業力の向上を目指し、子ども一人一人の教育的ニーズに応じた教育活動を行っている。	個別の指導計画やＩＣＴを活用した教育的対応の工夫や教育的ニーズに応じた学習指導の充実を図る。	個別の指導計画を用いて共有した子ども一人一人の実態に合わせてＩＣＴを活用し、教材提示やノート作成、自学学習の工夫等を行い、指導の充実に繋げた。	A	学習に行き詰まったとき、先生方は子どもに合った学習方法に変更し、様々な方向から「やる気」を引き出す指導をしてくれた。	保護者懇談会を定期的に設定し、学校や家庭の様子について丁寧に情報交換しながら、学校と家庭が協力して効果的な学習指導ができるようにする。
2	地域とともにある学校づくりを推進している。	地域や居住地の学校及び県内聾学校との交流活動の充実と地域の人的・物質資源を活用した教育活動を推進する。	地域や居住地の小・中・高・聾学校との授業や行事、部活動を通した交流学習、地域人材や施設を活用した少林寺拳法や造形教室、収穫体験等を行った。	A	同年齢・異年齢による集団での学習機会を確保するため、他校との交流の機会をいつも考えてくれてありがたいと思っている。	専門性の高い外部人材を活用した学習や交流及び共同学習については、社会に開かれた教育課程の実現を目指して、計画的・効果的に行っていく。
3	教職員の専門性向上と地域における特別支援教育のセンター的機能の充実に取り組んでいる。	聴覚障がい教育・特別支援教育に関する専門性の維持・向上や乳幼児等教育相談の充実に取り組む。	聴覚障がい教育、特別支援教育及び教科指導について、外部講師よるワークショップを含む研修会を実施し、校内外教職員の専門性向上に成果を上げた。	A	先生方は、補聴器の保存の仕方やその子に合ったコミュニケーションの手段を考え、日々の学校生活で指導してくれる。	聴覚障がい教育や特別支援教育及び教科指導について研修の機会を設定し、職員が継続して自身の専門性の維持・向上に努められるようにする。
4	学習活動の重点化を行い、働き方改革の推進と円滑な校務運営を両立している。	課題分析に基づいた学習活動の展開を重点化し、業務の改善と効率化を図りながら明るい職場づくりを推進する。	教育活動の精選と重点化を図るため、カリキュラム・マネジメントと校務分掌の見直しを行った。業務を可視化し、バランスよい業務分担の準備を行った。	A	交流学習や学校行事等において、職務多忙の中、少ない教職員で準備を進めるなど、校内教職員の団結力に感心する。	教職員数は少ないが、指導意欲が非常に高いため、職員のｳｪﾙﾋﾞｰｲﾝｸﾞに配慮しながら、ｽｸﾗｯﾌﾟ&ﾋﾞﾙﾄﾞを徹底し、業務のスリム化を行っていく。

（11）総括	幼児児童生徒が「学校は楽しい」と毎日笑顔で登校することを願い、子どもの思いに寄り添った関わりを大切にしながら、「困ったことは先生に相談できる」と安心して通える明るい学校づくりを目指す。将来の夢の実現に向かって、ニーズに応じた学習指導を充実させ、家庭と連携しながら子どもに必要な力を育むことができるよう取り組む。また、円滑な校務運営を目指して取り組むも、教職員の業務に対する多忙感は充分に改善されていないことが読み取れるため、新年度の各学部・分掌の運営方針を確認した上で、業務内容の精選と重点化を徹底し、業務分担に偏りが出ないように進めていきたい。